

---

# はつこい

徒然花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はつこい

### 【Zコード】

Z6503Z

### 【作者名】

徒然花

### 【あらすじ】

なんの接点もない彼を好きになってしまった、片想いのお話。

初めての想いだからどうすることもできなくて、見つめるだけで過ぎていく時間。

モノローグ風です。

(前書き)

初めて書いてみました。読んでいただけたら嬉しいです。

同じクラスでもなくて。

ただ、放課後の部活動の姿や、教室の窓から見る姿で、なんだかとても気になっていた。

はじめて彼を知ったのは、高校に馴染み始めた5月。部活動の時間だった。

拾い損ねたテニスボールを追って、私は体育館の入り口まで來ていた。

先輩、スマッシュ決める方向くらい考えてください…

なんて頭の中で文句を言い募りつつも、ダッシュで追いかける。黄色いボールは、誰かの足に当たって止まった。

当たった本人がすっと屈んでボールを拾ってくれる。ボールにばかり目が行っていた私は、ボールが拾い上げられていくのと同じスピードで視線を上げていく。

背の高い、男の子。

175はあるかな。すらつとしている。

愛想のよさそうな感じではないけれど、整った顔立ち。

同級生…かなあ？

そんなことをぼんやりと考えていたら、彼は私とボールを見比べるよにしてから、

「はい。」

と手渡してくれた。思いがけず爽やかな笑顔付きで。

「ありがとうございます。」

私も笑顔でお礼を言って、ボールを受け取り踵を返した。

ボール拾いをしながら何気に観察してみると、どうやらバレー部の

1年生らしい。

私と同じクラスの男の子と一緒にいたから。

接点はただそれだけだった。

私は2組、彼は5組。教室もビリヤーに間が開いてる。  
友達情報網を駆使してわかつたことは、私の隣校区の中学校出身で、  
校区は違うけれども私の家とは隣の町で、家も意外と近くてバス停  
も同じ。勉強もできるらしい。運動神経もいいらしい。ということ  
だった。

彼を好きだという子も、何人か知った。

でも、やっぱりそれだけ。

何の接点もない私たちはそれ以上進展するはずもなく、廊下ですれ  
違う時になんとなくペコリと挨拶するくらいで。

ただただ何気なく時間は過ぎてゆき、それでも私たちはつながることなく、進路も全く違う学校へ。

いつしか彼の話も聞かなくなつた。

偶然にも出会うことすらなかつたから、心の奥底にしまってこんだ。

そんな彼に久しぶりに会つたのは、大学も卒業して社会人になりたての頃だった。

通勤のためにバスを待つていたら彼がやつてきたのだ。

彼は自転車に乗っていた。

駅まで自転車で行くのか、はたまた会社まで行くのか、私にはわからぬ。

すれ違う刹那。目が合つた。

私にははつきりと彼を認識できるけれど、彼にしたら私なんて「ど  
こかで見たことのある子」か、下手したら「じろじろこっちを見る  
変な奴」くらいなんだろうな。

記憶に残つていたら、うれしいけれど。

目が合って、なんとなく、どちらともなく軽くペコっと挨拶する。なんだか懐かしかった。

去っていく彼の後姿を見ながら、切ないけれど少し心が温かくなつた。

彼つて、やっぱり私の初恋の人なんだなあ、と。

他の人を好きになり、付き合つたりもしたけれど、やっぱり彼のことは忘れたことはなかつた。

見つめるだけしかしなかつたからか、心中できれいな思い出のま

ま。

あれから何年経ったのかな。前よりもっとかっこよくなつたね。

心の中で、そつと話しかけた。

それから何度もバス停で会つたけれども、やっぱり私たちはずそのままで。

軽い挨拶をして終わり。

それもいいか、と思えてる。

「初恋は実らない」って歌詞を、どこかできいたことあるよなあつて、ちょっと笑えた。

(後書き)

拙いお話をですが、読んでいただきて、ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6503z/>

---

はつこい

2011年12月21日22時55分発行